

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告

実施概要

| | | | |
|-------------------|---|----------|--|
| 学校名 | 松戸市立 相模台学校 | 校長名 | 野澤 孝 |
| 学校所在地住所 | 〒271-0076 千葉県松戸市岩瀬 434 番地 2 号 http://www.matsudo.ed.jp/sagami-e/ | | |
| 参加者 | 4 学年 4 学級 133 名 | 指導 教諭 | 加藤 静江 教諭 石黒 清子 教諭 田高 純子 教諭 中谷 和弘 教諭 |
| 参加目的 | 本校の目指す児童像は「すすんで」「なかよく」「たくましく」であり、宇宙連詩に取り組むことによって児童同士の結束を高めていけるのではないかと考えたことと、4 学年で初めて星座の学習を向かえたことで、星や宇宙に関心を持ち始めた児童がもっと関心が高められる場を提供できればと思い参加しました。 | | |
| 指導目標 | 目標 1：宇宙連詩に向けて、連詩の書き方を学ぶ機会を児童に提供する。 目標 2：宇宙連詩作成に際して、「きぼう」などについての解説を聞き、宇宙についての関心が高められる場を設ける。 | | |
| 具体的な取り組み内容 | | | |
| 実施段階 実施時期 | 取組内容 | | |
| 準備段階 11 月～ | 指導目標 2 への取り組み 近隣のプラネタリウムドームの職員を本校に招き、「きぼう」や宇宙飛行士である山崎さんについての説明をしてもらうことで、宇宙についての関心を高めた。 | | |
| 導入段階 11 月～ | 指導目標 1 への取り組み 本校職員による連詩の作り方の説明を聞き、前者の詩のイメージを引き継ぎ、身の回りの生活と結びつけながら詩を考える練習をした。 | | |
| 実施段階 12 月～ | 各学級で一人ずつ詩を考えたり、グループでひとつの詩から浮かぶイメージを考えたりすることで、児童間の結束を高めながら宇宙連詩を作成した。 | | |

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告
指導教諭からの報告

自由な発想を生み出す宇宙連詩の取り組み

松戸市立相模台学校 4 学年指導教諭 中谷和弘

本実践において、連詩・宇宙連詩の作り方について学習し、実際に作成することができた。また、前者が作った詩から各々が膨らませたイメージをみんなで共有したり、みんなでひとつの詩を考えたりと、1人で考えるのではなく、互いに意見を出し合うことで自分自身の考えを深めていくことでできた。また実践全体を通じて、星や宇宙に興味を持ち始め、授業の時間以外でも星や月を観察する児童が出てきた。したがって、先に設定した指導目標について、ある程度達成できたのではないかと考えられる。実践の始めの頃は、宇宙に関連する言葉を使わずに宇宙連詩を考えなければいけないということで、児童らが取り組むにはいささか難しいと考えていた。しかし、逆「宇宙」という言葉は児童の想像の枠を限定させずに、私たちが思いもよらなかった自由な発想で詩を作成し始めたことに驚いた。宇宙連詩のよさは、子どもの発想を今まで以上に膨らませることができる点であると考えられる。

児童らが今回の実践で学んだことをこれからの活動に生かして欲しい。また宇宙について強く興味を示した子についてはこれからも色々な形で学習できる場を提供していきたい。